

向春

こうしゅん

春に向かっている季節を指す言葉。暦上では立春を迎え、春の訪れを告げる梅の花も開花する頃合い。寒さもあと少し、と感じられます。



新年早々「最強寒波」到来。これは雪が積もる前の幻想的な風景ですが、この後積雪し、収穫前でしたか葉の痛みなどもあり収量が少なくなりました。残ったねぎを大事にします。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

今この季節こそ感じられる冬葱のお届け

昨年秋の時期に根本を残すカット収穫を行い、主に京都市内と亀岡の畑で秋冬を過ごして育った冬葱のお届け。昨年夏の高温による根の痛み等の影響は、1月になった今も尾を引いているものもありますが、少しずつ頑張って回復してきてくれています。この時期の特徴としては比較的に色濃く、夏の季節と比べると葉が太めに育っています。「ねぎは薬味」というイメージを持っていると、輪切りカットした際にその大きさに驚かれる方が多いです。そんな冬葱をお楽しみください。



古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

NO.213
2025年2月号
TEL: 075-601-0668



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信



積雪したあとの畑とねぎと作業

1月上旬までは気温の低い日も多く、京丹後の方では50cm程度のまとまった積雪になり、ほとんどのねぎが雪の下敷きになってしまいました。長く雪が乗っていたねぎは葉焼けしており、状態を見て選別しながらの収穫となるので時間を要しますが、使えるねぎを大切に扱いながら作業しています。

下旬は日中温かい日も多く、日によっては3月上旬並の気温という日もあり、外で仕事をする農人たちにとってはありがたい限りでした。例年よりも気温の高い日が多いという予報となっているようで、ねぎたちの成長に一役買ってくれたらと願っています。

現在、美山の育苗ハウスで育苗中の苗たちの定植は3月頃を予定しています。今の季節は気温が低いことと曇天の日が多くなり、生育に時間がかかります。育苗期間が長いことで肥料も切れてくるので、もう少し先の春の季節までは長期的にこまめな管理が必要です。

苗は、根の張り具合を重視して見えています。



ハウス内の気温管理、苗たちが育ちやすい適温を保つことも冬場は特に難しいです。

とある日の農人日記。

積雪してから1週間ぶりに丹後収穫を再開。しばらく溶けないのではと心配していましたが、何とか収穫出来るところまで溶けてくれました。いつもの1.5倍程は時間を要したので、今後はそれを見越し予定を組みます。(丹後・浅場)



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。